

環境教育「まず、今できることから」

歴史に学ぶ

発行所：地域環境活性化協議会
編集者：代表幹事 高橋 賢一
連絡先：市民活動支援センター
尾張旭市渋川町三丁目5番地7
(渋川福祉センター内)
TEL 0561-51-2878



これからは令和の一月も前から姿をお見せしてしまいました。がいよいよ着任されましたね。あらためて、どうぞよろしくお願ひ致します。
木々がみずみずしく若葉をまとい、梢を伸ばす季節が来ている。
万葉集に「三國山木末に住まひむささびの鳥狩ふごとく我侍ち度せむ」という歌がある。
古き時代、梢は木末と表記したり。さらうの時をさかのぼると、梢は「末」と書いたり「末」と書いたり、どちらでもよかたという。
末路と未来を、伸びゆく木々の枝先に同居させたかのような不思議な漢字の成り立ちである。
平成という時代の枝が末路を迎え、



▲ お野立所、両陛下が御臨席の際に御着席される、お野立所の建設が完成する日も近い。

令和が始まりました。元号が改まったことで生活が変わるわけにはないけれど、未来を「よきものにするよう心新たにする区切り」としまし
よう。
へおそく人間はどんなに希望のない末路に達しても、まけても、そこになおかつ未来を必死で見まうとするのではないうで、まうか、平成を振り返るだけでも、多くの人が思い当たろう。災害などに追いこまれながら、そのたびに必死に未来を見つめてきた。
そうしてまさに今、みんなで新しい梢の同じ枝先にいる。

▼ お野立所素材は、設楽町のヒキ、豊根村のノギで建設された技術です。



▶ 日経、読売、朝日、毎日、中日の5紙による一面見出しなり。